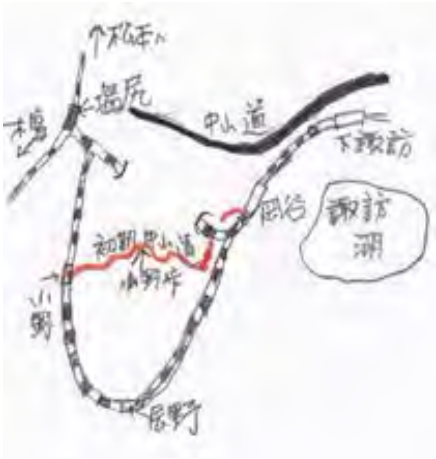
『初期中仙道』を歩く（2019.11.6～7）

慶長七年(1602)開道した中仙道は、下諏訪宿から東堀、小井川、岡谷を通り、三沢峠を越え小野宿を経て、更に牛首峠を越えて桜沢に出て贄川宿に通じていた。ところが慶長十八年(1613)大久保長安の死去後にこの道筋は廃止されて、下諏訪宿から塩尻峠を越え、塩尻宿・洗馬宿・本山宿を通り、贄川宿に至る道（所謂、今に伝わる中仙道＝中山道 ※註１）となった。この僅か１０数年で廃止された道筋が「**初期中仙道**」だ。【下図　参照】
ここを 64 期の有志で歩いた。



次元は全く異なるが、明治 39 年(1906)6 月中央線が「岡谷」駅から「辰野」・「小野」経由で「塩尻」駅まで延伸された。明治 42 年(1909)10 月には始発駅「昌平橋」駅～「塩尻」～「篠ノ井」駅までを中央東線と名称制定。更に明治 44 年（1911）5 月「名古屋」駅から木曽谷に沿って「塩尻」駅まで延伸していた中央西線も編入して、「昌平橋」駅～「塩尻」～「名古屋」駅の線路名称を中央本線と制定（なお「昌平橋」駅は「万世橋駅」開業で廃止、その後「万世橋駅」も「神田駅」に吸収）

昭和 45 年前後、新宿から中央(東)線で松本や大町・白馬へスキーや登山に向かう際に、岡谷から辰野・小野を回って塩尻に出て、松本方面に出ていた。昭和 58 年(1983)7 月に、塩嶺トンネルを通る新線が開通し、「岡谷」駅～新駅「みどり湖」～「塩尻」駅が中央本線の本経路に改定され、「岡谷」駅～「辰野」駅・「小野」駅～「塩尻」駅の経路は中央本線支線として本線から分離された。この辰野駅・小野駅経由の支線＝盲腸線は、本数は少ないが立派に残っている。（ただ岡谷発の飯田線直通に乗り、辰野駅での乗換が必要だが…※註２）

ここで『疑問』が；

【中央(東)線が、支線＝盲腸線の迂回経路を止めて、トンネル経由の最短経路になったのに、「中仙道」は初期の短い道筋が廃止され、なぜ遠廻りの塩尻峠越えの道筋に変更されたのか？】この『疑問』を解く手がかりを求めて、**初期中仙道**を歩くこととした。

・**初期中仙道**の道のりは、下諏訪宿から三沢・小野峠を越えて小野宿まで３.５里、小野宿から牛首峠を越えて桜沢まで３里、桜沢から贄川宿まで２里。昔の旅人は健脚なので、贄川宿から更に２里先の間の宿平沢か奈良井宿までの約４０㌔の１日行程。けれども私たちの行程は１泊２日で、下諏訪宿～贄川宿の３３㌔を歩く計画にした。

＊初日 11/6

《下諏訪宿～岡谷宿～小野峠(三沢峠)～小野宿》15㌔ or （岡谷宿～小野宿：10㌔）

下諏訪駅を 10 時に出発したのは男性陣の健脚組。下諏訪宿からの中山道を諏訪大社の下社春宮の大鳥居と石燈籠を右に見て、諏訪湖に注ぐ砥川・十四瀬川を渡ると東堀地区にかかる。そのまま直進すれば塩尻峠を越えて塩尻宿に行く後の中仙道だ。この先には下社春宮別当の平福寺と百万遍供養塔を兼ねた立派な道標(寛政三年 1791 建立「右中仙道 左いなみち」)がある。この辺りが旧伊那街道の中仙道からの分かされ個所だったが、今は下諏訪辰野線(県道 14 号線)が岡谷市内に向けて真っ直ぐに延びている。

初期中仙道は、十四瀬川を渡ったすぐ先の四辻を左に曲がる。ようやく旧道らしい雰囲気のある道になってきた。信州 100 名山の鉢伏山(高ﾎﾞｯﾁ高原の最高峰)から流れきて諏訪湖に注ぐ横河川を渡ると、二階建ての重厚な屋敷が見える。近くには『小井川の一里塚』(江戸 56 里)跡があるらしいが岡谷市観光課資料では場所不明になっている。なお初期中仙道一里塚跡とだいぶ離れた場所に、十数年前「小井川一里塚」を県道 14 号線沿いの敷地内に建てた方がいるそうだ。場所は東堀正八幡宮(柴宮：宗良親王ゆかりの宮)の傍だそうだが…。この先の旧道は狭くなり歩道もなく対向車に注意しながら先を急ぐ。

岡谷中央通りに入ると更に道が細くなる（中央通りなのにね？）途中で昼食と飲物を買い、更に先を急ぐ(岡谷駅の女性陣出発は１１時半)。予定時刻には間に合わないので岡谷駅には向かわずに、後を追う旨を連絡し蓮華不動院辺りでようやく合流できた。
時間に余裕が有れば重要文化財の旧林家(近代化を支えた製糸業のひとり林国蔵氏邸宅)を見たかったのだが残念でした！

長野自動車道の高架下で県道 14 号(下諏訪辰野線)から分かれた山裾の旧道には、馬頭観音・庚申塚･石仏や秋葉社､水神様が点在している。土俵がある熊野神社で遅い昼食。神社前に、この辺りが「東山道 深沢 駅」と書いた碑があり、天竜川の眺めが良い。塩嶺トンネル入口に向かう JR 中央本線を陸橋で越えると、道が二手に分かれる場所に道標(「右 小野木曽道」「左 伊那三河道」)があり、右手の少し先に『三沢の一里塚』(江戸 57 里)がある。

よもぎ沢を越えると鶴嶺公園が左側に現れてきた。片倉組から寄贈された公園で中部地方一のツツジの名所で、片倉兼太郎翁銅像がある。この先、道は二手に分かれ、広畑遺跡(縄文中期の集落で諏訪地方屈指の集落跡)や、高尾城址(武田家諏訪五十騎の三沢氏居城)に至る急坂を上るのが道筋だが、他メンバーは坂を下ってしまい、川沿いに上り返してくるオマケも。待張川沿いの旧棚田を左に見て橋を渡った先に、「宿返しの大石」(諏訪下社春宮の奥にある〔万治の石仏〕に似ている)があった。ここから杉林の中の荒れた山道の登りになる。ぬかるむ道に悪戦苦闘しながら狭い狭間の切り通しを進む。

突然に左側に碑が現れた。ここが標高 1075㍍「小野峠」だ。小野側からは「三沢峠」と呼ぶそうだ峠の右側上方に行けば、石祠が三基ある「三郡の辻」(筑摩郡･諏訪郡･伊那群)があるがパス。碑の後ろ側の峠の左山道一気に上り展望台に向かう。八ヶ岳や諏訪湖・北ア

ルプスを眺めて小休憩する。しかしまだ行程の半分なので、急いで林道を下るが以外と時間が掛かる。ようやく塩嶺王城パークライン(※註３)の舗装道路に出る。小野宿に向け下り道を急ぐ。途中に国天然記念物「シダレグリ自生地」や「しだれ栗森林公園」がある。沓掛石が有る人口池に映える紅葉が綺麗だった。

暫く歩くと、道路から逸れた旧道の両側に塚がある。「楡沢の一里塚」(江戸 58 里)だ。道路を下に見て旧道を更に進むと、楡沢川に注ぐ巌沢からの小さな湧き水(色白水)がある。この水を飲み、顔を洗うと色白の美人になる名水で貪って飲んだ。明日の朝が楽しみだ。午後３時もとうに過ぎ、陽は山にかかっており楡沢川に沿って更に先を急ぐ。谷を抜けると、のどかな田圃が広がってきた辺りに小野公園がある。小野川を渡り、JR 線踏切を渡ると、国道 153 号線(三州街道)に出た。初期中山道は左へ曲がり小野宿を通って宿外れから牛首峠に向かうが、今日はここでおしまい。小野駅(M39 年開業)へ向かう。とっぷりと日が暮れた中を車で、今宵の宿「たつのパークホテル」に向かい温泉で疲れを癒して明日に備えた。

＊２日目 11/7

《小野宿～牛首峠～桜沢》11㌔ ＋《桜沢～贄川宿》6㌔　or　《桜沢～日出塩駅》3㌔

宿から車で小野駅に戻る。国道 153 号線(三州街道)に並行して旧伊那街道が残っており旧道沿いを少し散策する。両小野○○などの表記が目立つ。天正十九年(1591)秀吉の知行割りで、唐沢川を群境にして二つの村に分断されたが、村人たちは「憑(たのめ)の里(＊註４)は一つ」として今でも一緒に力を尽くしているそうです。その象徴が信濃国二之宮として信仰されていた広大な鎮守の森にある小野神社と矢彦神社で、御柱祭は諏訪大社にも劣らないそうだ。

昨日のゴール小野宿入口から出発。直ぐに小野酒造店があり、昨夜宿で飲んだ酒(夜明け前　＊註５)を買う。小野宿両側には小野父子の実家跡(記念館)や、伊那街道小野宿問屋場の旧小野家も残っている。旧小野家は豪壮な本棟造りで雀飾りも大きい。明治５年開設の旧明正学校だった明倫館(後の旧小野村役場)の角で、旧伊那街道と分かれ、飯沼川に沿って牛首峠に向かう初期中仙道の県道 254 号線(楢川岡谷線)に曲がる。津島神社を過ぎた左側の田圃の中に「塚原の一里塚(江戸 59 里)」跡碑が立っている。

この先には川に沿って下村・中村・上村(山口)の飯沼の集落が３つあり、家々には家紋入りの土蔵が多く見られる。また集落の外れには庚申石祠・馬頭観音・道祖神等が点在している。中村集落手前の川向うには、熊野諏訪神社があり、木曽義仲お手植えのトチノキの古木も見られた。山口(上村)が辰野方面から来るバスの終点で、この先牛首峠までの旧道は冬季閉鎖で峠の向うも国道 19 号線沿いの桜沢までは人家なし。つづら折りの坂の途中に東屋があり昼食休憩。ここから今歩いて来た飯沼の集落と、その奥に蓼科山と北八ヶ岳連山が秋空に映える好天気だ。

道が緩やかになり、右手林の中に「前山の一里塚(江戸 60 里)」がある。その先が牛首峠(1060ｍ)だ。歌碑が数塔あるだけの寂しい峠で、峡間なので風が抜けて寒く早々に桜沢へ下る事にした。なお初期中仙道が開道した時代は、伊那谷と木曽谷を結ぶ唯一のルートが牛首峠越えだった。その後、南側に権兵衛峠（権兵衛街道：伊那～奈良井）が開削されたそうだ。

牛首峠からは奈良井川の支流境川に注ぐ、きれいな水が流れる大小の沢を左右に見て、一気に降りる。途中沢の合流点に馬頭観音碑がある。ここが桑崎分岐でこの奥には小規模な桑崎集落があり分教場もあったが、今は廃村だそうだ。左岸・右岸と境川を渡りながら更に下ると、塩尻市上水取水地が有り、水道局パトカーが停まっていた。中央(西)本線の新・旧桜沢トンネルを越えると国道 19 号線に合流。大きな「初期中仙道 案内図」板があり２日間の道筋と見所を再確認した。ここで女性陣は《日出塩駅》へ、男性陣は贄川宿《贄川駅》へと別れた【バイバイ！】。

境川を境橋で渡ると、『是より南 木曽路』石碑がある。車の往来を確認して国道を横断、桜沢旧道の山道に分け入る。初期中仙道の古い資料では、ここが本来の初期中仙道の旧道入口らしいが、途中で境川の川筋が変わって旧道は通行不可との事。大きな祠の中に馬頭観音が有る場所から再び国道 19 号線に合流。桜沢立場の茶屋本陣(百瀬家)がある桜沢集落を過ぎると、旧片平村の旧道があり車騒音から逃れてホッとする。旧若神子村の旧道手前の国道擁壁上に「若神子の一里塚(江戸 62 里)」が残っている。この先は左下に JR 中央(西)本線と国道 19 号線を見下ろして歩ける旧道が続いている。途中、水場や庚申塚・石仏・石塔や神社・寺などが点々と現れて、中山道の木曽路入口を十分に楽しめた。贄川宿の案内板がある贄川駅前にようやく到着。電車待ち時間がたっぷり有り関所見学できたかも。

２時間半に１本の電車に乗込み、日出塩駅で女性陣を拾い、塩尻駅で夫々の帰路に就いた次第でした。２日間に亘る初期中仙道の旅を無事に踏破でき、皆様に感謝、感謝！

(参加者：4 石井則男,5 宮澤康元, 5 安武知子,69 池田有美子,9 宮下明子リーダー,3 磯村 記)

＊註１：中仙道（中山道）は 1659 年(万治 2)以降道中奉行の管理下に置かれた五街道だが 1716 年(享保 1)幕府は公称名として中山道にした。2016 年は改称３００年になり各宿でロゴを統一したようだ。(写真は洗馬宿にて)

＊註２：辰野駅廻り盲腸線（中央本線の支線）の別称「大八廻り」
伊那地方出身の代議士で鉄道局長「伊藤大八氏」の尽力？で、中央西線は木曽谷でなく伊那谷を通そうと計画したが断念し、せめて伊那盆地入口の辰野経由を実現させたとか……。　諏訪地方には例の『糸魚川静岡構造線』が走っており、当時の土木技術レベルでは、とても５㌔超ものトンネルを開掘出来なかった為に迂回せざるを得なかったのが事実らしとの事ですが…、真実は如何に。

＊註３：塩嶺王城パークラインは、岡谷市・塩尻市・辰野町の観光協会と商工会議所などが協議し、①日本中心の鶴ヶ峰トレイル　②初期中仙道トレイル　③塩嶺王城小

鳥の道トレイルを結ぶ道路として、塩尻峠手前の勝絃峠から小野宿の国道 153 号線までを整備した。各所から北アルプス・中央アルプス・南アルプス・八ヶ岳(北・南)の絶景が楽しめる。

＊註４：小野では、古くから「憑(たの)めのさと」と呼ばれているそうです。語源は旧暦八月朔日に矢彦神社・小野神社で行われた「田の実」祭りに起因しているとか。
官道の東山道が小野を通っていたので、京の都でも「枕草子」や和歌にも詠まれていたそうです。

＊註５：島崎藤村嫡男の楠雄氏が名付けた、1864 創業の小野酒造店の「夜明け前」は、裏の霧訪山(信州 100 名山)の伏流水で仕込み、寒冷地小野での寒造りなので、雑味少なく口当たりがやわらかく、キレが良くスッキリとした味わいとか…（下戸のコメントで失礼しました）

中山道改称 300 年統一ロゴ(右上)

三沢の一里塚

小野峠（三沢峠）碑

楡山の一里塚（旧道の両側に）

沓掛石の池の逆さ紅葉と美女・野獣

【色白水】湧水脇の水神様

山口集落と蓼科・北八ヶ岳

境橋(尾張藩･松本藩)たもとの木曽路碑

江戸 62 里　若神子の一里塚

贄川駅前の手打ち蕎麦屋
(宮澤氏スケッチより)